



# 令和6年 能登半島地震 DMAT派遣関連記事



※DMAT(ディーマツト)…災害派遣医療チーム(Disaster Medical Assistance Teamの略称)

この度の令和6年能登半島地震によりお亡くなりになられた方のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災されたすべての皆さまに心よりお見舞いを申し上げます。

市立室蘭総合病院は、1月7日(日)に北海道知事からの派遣要請を受け、石川県の能登医療圏DMAT活動拠点本部(公立能登総合病院内)に、当院DMATを派遣しました。

令和6年1月7日(日) 14:30出動

※同月9日(火) 10:30 公立能登総合病院到着

令和6年1月14日(日) 帰蘭

派遣職員(計5名)

医師1名、看護師3名

業務調整員1名



## Q1. 現在の被災地の印象・実際に足を運んで感じた事

- 私達は輪島の施設等のニーズ調査や、そこで働く職員、入所者の健康状態、運営状況等の調査を行いました。施設職員は自身も被災し家や大切な人を失いながらも入所者の事を一番に考え水も電気もない中、必死に過していました。その姿を見て私も何か少しでも力になりたいと考えました。短い期間ではありましたが思いを引き出すよう一言一言に耳を傾け寄り添う気持ちで接しました。
- 山中では重機の搬入や支援車両が入りづらい事が復旧の妨げになっていると思いました。陸路ではがれきの除去などが大変そうな印象を受けました。

## Q2. 活動中での苦労

- 道路状況がかなり悪く、土砂崩れの可能性もあり、運転には特に注意を払っていました。また断水により、トイレの使用箇所が限られていたため水分摂取量の調節や、トイレの使用タイミングには気を使ってしました。
- 通れない道や悪路、渋滞で45kmほどの道のりを4時間もの時間を費やした事
- 土砂崩れで片側が塞がれていたり、家屋や外灯が倒れて通行を妨げていたり危険を感じることもありました。移動中、活動中は使用できるトイレは無かったため**ほぼ飲まず食わずの中での活動は大変でした**。朝から何も食わず、活動終了後の23時頃にみんなで食べたカップラーメンの美味しさは一生忘れません。本当に美味しかった。

## Q3. 現時点で被災地の方々が実際に必要だと感じたもの

- インフラの整備を早急に行うことが1番だと思いました。入居者も職員も寒い中ダウンを着て何とか過ごしていました。私達も北海道胆振東部地震の際にブラックアウトで電気の必要性は痛感したところですが、やはり冬期の電気の必要性、更に今回の震災では水の重要性を感じます。今後は心のケアや体調管理も必常に重要になると感じました。
- 情報統制、情報管理。物資が山のように積まれているが何が何個あるのかも把握出来ておらず、何処で何を必要としているのか情報収集、共有が必要。
- 現在も各地のDMAT等現地で活動中ですが今後も継続して支援が必要だと思います。

当院DMATの取材の様子が  
1月18日、19日にNHKで放送されました。



←放送内容は  
「北海道NEWSWEB」  
サイトでご覧いただけます



# 4階西病棟

## 2名の看護師への質問

# 看護局特集

# Part2

Q何年目→27年目 Q出身→市外

### Q主な業務→化学療法(がん薬物治療)

外来の診察後バイタルチェック、前回治療からの体調変化、副作用のチェックなどのほか、点滴のメニュー確認などを主に行います。その他外来や病棟で聞けなかった事、患者さんの状態、心情など外来と病棟スタッフや医師との橋渡しができるよう連絡や調整などを行っています。

### Q心掛けていること

患者さんは退院後には日常生活があるので治療したから業務終了ではなく、治療をした時の状態を保つことを念頭に置き看護をしています。また化学療法による副作用なども患者さんが受け入れながら治療に進めるよう気持ちに寄り添った看護を意識して行っています。

### Q当院のいいと思うところ

家庭環境、健康面に考慮した配属など、長く働いていける環境だと思っています。スタッフともコミュニケーションを取りながら仕事に集中できる環境だと思います。

### Q看護師という職業の魅力

「これでよし」がない職業だと思うので探求心と向上心をいつまでも持ち続けられるところが魅力の職業だと思います。27年経っても日々学びがあり、面白味を感じられています。

Q何年目→7年目 Q出身→市内

### Q主な業務→眼科

患者さんは外来で検査し手術の日程が決まり、病棟に来られます。その後、バイタルのチェックや手術前の点滴を入れ手術室への誘導という流れとなります。手術後はお迎えに行き、術後の説明などを行います。

### Q心掛けていること

眼科の患者さんは目が見えにくい方が多いので、手術の説明には書面を渡すだけでなく、不安を与えないよう口頭で聞いておきたい事やお手伝いできる事はないかの確認に気を配っています。また、治療に関する説明の補足や自宅での生活の相談、気を付ける点やアドバイスなど細かなコミュニケーションを大切にしています。

### Q当院のいいと思うところ

結婚、出産を経て当院在職中ですが、時短勤務など家庭面の考慮があり、育児休暇後の復帰もスムーズに行うことが出来ました。病棟は雰囲気も良く恵まれた環境だと思います。

### Q看護師という職業の魅力

私自身、人と関わる事がもともと好きだったのでこの職業を通して人との関わり方を学ぶことに魅力を感じています。様々な年代、タイプの方々と接することは難しいと感じることもありますが、相手の立場になりコミュニケーションをとる中で人として患者さんから学ぶことも多くあり自分の成長を感じられた時には仕事の面白味を更に感じる事が出来ると思います。



特殊処置室



病棟前のお二人



完全一体型輸液セット導入の準備中



医療用ウィッグ

# 内視鏡室

当院の内視鏡室には内科学会・消化器病学会・消化器内視鏡学会・消化管学会の専門医が在籍しています。当院には最新のシステムが導入されており、一般的に知られている胃カメラ・大腸カメラ以外に、超音波内視鏡・内視鏡的逆行性膵胆管造影(ERCP)・内視鏡的粘膜切除術(EMR)・内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)など他にも様々な特殊検査・処置・治療が行われています。

通常の採血やCTやMRIで異常が見つかった際には、より精密な検査や処置が行えます。また、2週に1度、大学から派遣される医師の検査などにより大学と連携した環境でより専門的な検査・治療を受けていただくことが可能です。

将来悪性になる可能性の高い腫瘍、もしくは悪性の腫瘍を内視鏡的に切除するESDではより高度な技術を要するため、全国規模で活躍している医師を当院に招いて実施しています。

また、呼吸器内科領域では気管支鏡・経気管支肺生検などの検査も行っています。

内視鏡検査を受ける方は、不安や恐怖心をもって来院される方が多くいらっしゃいます。リラックスして検査が受けられるような説明や声がけをし、コミュニケーションをとり、検査に来た方が安心して安全な検査を受けられるよう日々努力しています。

ご希望があれば眠った状態で検査を受けていただくことも可能ですが、身体の状態によっては適応とならない場合もあるため事前に医師にご相談ください。



皆さんに苦痛の少ない安全な検査や治療を受けていただけるよう日々励んでいますので、少しでも気になる症状がありましたら、ぜひ検査を受けることを検討してみてください。

# 乳腺専門外来についてのご案内

令和6年1月15日(月)から

当院で勤務する女性外科医の宇野智子外科副部長が  
あらたに資格を取得し乳腺専門医として  
乳腺専門外来の診療を開始しました。



室蘭民報社1/19朝刊

北海道新聞社  
許諾D2401-2407-00027637



北海道医療新聞社

診療開始にあたりNHKでTV取材の様子  
が放送されました。放送内容は「北海道  
NEWS WEB」サイトでご覧いただけます



←新聞にも  
記事が掲載されました

## 泌尿器科外来、呼吸器内科外来からのお知らせ

2024年(令和6年)1月より、新患は **完全予約制** となります。  
何卒ご了承くださいませようお願い申し上げます。  
新患での受診の際は、事前に泌尿器科、呼吸器内科の各診療科受付にてご予約いただきますよう  
重ねてお願い申し上げます。

## 眼科外来からのお知らせ

令和6年4月1日(月)より常勤医師が **1名体制** となります。  
診療体制の縮小に伴い受診間隔の延長ならびに他院への紹介に  
つきまして、ご理解とご協力をお願い致します。



## 看護師の方、看護師をめざしている方 見学・相談など行っています

当院では看護師をめざしている方を対象に奨学金制度(看護学校、看護大学入学後に  
利用可能)を設けております。看護学校在学中の方、看護学校進学志望の方は、当院の  
奨学金制度を利用して看護について学び、将来の当院の看護師として活躍ください。  
ご希望の方は、ご連絡ください。



市立室蘭総合病院  
広報委員会

〒051-8512 室蘭市山手町3丁目8番1号  
事務局総務課 TEL (0143) 25-3111 FAX (0143) 22-6867  
<http://www.city.muroran.lg.jp/main/org8400/>